

環境変化が著しい昨今、既存事業が成熟期・衰退期を迎え、次の事業の柱を構築するために、保有技術を活用した新規事業開発に取り組み製造業は多い。しかし「どのように新規事業コンセプトをデザインすればよいかわからない」という悩みをよく聞く。その解決策として、本連載では4回にわたり、Bt

oB製造業（中堅・中小企業）における新規事業コンセプトの創出について、特許情報や発明原理を活用した方法を解説する。1回目

では、①自社の保有する技術を棚卸し②技術区分を機能キーワードに変換することが必要である。

は、現状分析の手法を紹介する。現状分析の目的は、新規事業コンセプト創出に向けた検討材料（自社の技術の関係性を網羅的に把握・整理することで技術資源の評価、自社技術の使用

①技術の棚卸では、製品を横軸、技術を縦軸に配置したマトリクスを作成し、

各々の升目に使用されている技術を記入する。製品と

技術の関係を網羅的に把握・整理することで技術資源

の

保有技術の棚卸と社内情報整理

製造業の新規事業(1)

源の評価を行う。②技術区分の機能キー

用途の評価、今後新規事業を考えるヒントとなる社内情報の整理)をそろえることにある。

「自社の技術資源の評価」

ワード)に変換するよう

な作業である。次に自社の技術が現在どのような分野で使用されているのかを棚卸する(使用用途の評価)。まずは

検索エンジンに自社の技術区分を入力し、現在の用途分野の洗い出しを行って

最後に、社内情報の整理では、これまで営業部門や



安藤 景祐(あんど う・けいすけ) コンサルティング事業本部 経営コンサルティング第2部 マネージャ

みるのが良いだろう。加えて、特許データベースを使用すると、より効率的に作業を進められる。自社が特許を保有している場合には、保有特許の「特許分類情報」と、棚卸で整理した「技術区分のキーワード」により、現状の用途分野の大枠を整理する。特許情報には詳細な技術情報が記入、もしくは参入しようとして断念・失敗した歴史の棚卸も必要だ。成功・失敗要因の分析は、新規事業コンセプト創出の物差し作りにも活用できる。

また、これまで自社が参入、もしくは参入しようとして断念・失敗した歴史の棚卸も必要だ。成功・失敗要因の分析は、新規事業コンセプト創出の物差し作りにも活用できる。今回は、特許情報を活用した新規事業コンセプトの1次仮説の作り方について解説する。(毎週木曜日に掲載)

